

対話・プロセス重視の多文化共生保育支援

「わいYボード」 研修ガイドブック

2026年3月発行



山梨県「わいYボード研修」推進プロジェクトチーム（YBPT）

目次

1. はじめに：「わいYボード研修」のめざすもの	2
2. 「わいYボード」って何？	6
3. 「わいYボード研修」の進め方（1）全体的な進め方	8
4. 「わいYボード研修」の進め方（2）画像生成AIの活用	12
5. むすびに：「わいYボード研修」で大切なこと	13
<付記> AIと著作権に関するチェックリスト&ガイダンス	15
<付録1> ワークシート	16
<付録2> 参考情報リスト	16

1. はじめに：「わいYボード研修」のめざすもの

本ガイドブックを手にした方は「わいYボード」って何？とまず思われたのではないかと思います。「わいYボード」とは、「パネルシアターで使用するPペーパーを使った、対話・プロセス重視のワークショップ支援ツール」で、保育者、行政（山梨県総合県民支援局 男女共同参画・多様性推進課）と研究者（多文化教育・保育／美術表現・造形教育／栄養学・食育／あそび・保育環境、保育方法）が現職の保育者等の知見も得ながら協働して考え出したものです。なお、パネルシアターではPペーパーで作成しパネルボードに貼り付けるものを「絵人形」といいます。

「わいYボード研修」に興味をおもちの山梨県内の保育施設には、本ガイドブック、パネルシアターボード 1 枚、Pペーパー 8 枚が山梨県の担当部署より配布されます。これらを活用して、まず、「わいYボード研修」を始めてみてください。そして、あなたの園に合った展開を試行錯誤していただきたいと願っています。参加者としては、園の管理職の皆様、保育者（保育士、幼稚園教諭、認定こども園保育教諭等）の皆様、保護者の皆様、幼児の皆様等を想定しています。イラストの苦手な方には画像生成 AI の活用方法についても説明いたします。

まず大切なのは「多文化共生保育」をどう捉えるか、ということです。山梨県では、乳幼児期から国籍や民族等の違いに触れ、互いに尊重する心を育てていくため、保育所等における保育士等の多文化共生への理解促進、保育士等多文化共生ネットワークの構築、及び通訳等の派遣により、「やまなし国際保育推進事業」が実施されています。保育士等の多文化共生への理解促進の一貫として 2024（令和 6）年度及び 2025（令和 7）年度に「山梨県国際保育推進研修」が行われました。

当初、2025（令和 7）年度の研修は「国際保育を推進する絵本づくり」を目指してスタートする予定でした。前年度第 4 回の研修で絵本のテーマを検討した結果、次に挙げる①②③の 3 つに内容が絞られ、受講者の皆さんによる協議の結果③が選ばれました。

- ①「食」：外国につながるのある保護者・乳幼児向け。食に関する違いやマナーについて実際に困った例などを取り上げる
- ②「日本の保育施設（以下、園と表記）の紹介」：外国につながるのある保護者向け。入園を希望する乳幼児の保護者に、園での一日の過ごし方や保育理念などについて、わかりやすく紹介する
- ③「多文化への気づき」：保育者向け。保育者自身が、違いを知ること、柔軟になる必要性を感じるような内容にする

「多文化への気づき」のために、山梨県国際保育推進研修の講師陣及び山梨県担当で構成される山梨県「わい Y ボード」研修推進プロジェクトチーム（以下、YBPT）は、多文化共生保育の「知識」、「感性」、「能力」が重要だと考えています。

まず、「知識」について 3 点挙げたいと思います。第 1 は「社会は変化している」という知識です。AI に代表される Society5.0（人間中心の社会／「創造性」あふれる社会に向けた学びへの転換）や、社会やビジネスにとって未来の予測が難しくなる状況（VUCA）を生き抜いていく乳幼児が、人生 100 年時代をどう過ごしていくかという観点から、知識注入型ではなく、これからは、状況に応じた柔軟な姿勢が求められているという認識です。第 2 は「多様な文化についての知識」です。様々な人々が生活しているこの地球上の様々なことば、ことばの背景、子育ての考え方・方法、習俗、習慣等について、敬意をもって理解することです。また、国境を越えた移動や国際結婚等、現代は「日本人」「外国人」と、もはや二項対立では捉えられないということが「見

える」時代であるという認識も必要となります。第3は「多様な文化と出会うことにより文化は豊穡化する」という認識をもつことこそ重要であるという知識です。「異文化間教育の研究として多くの蓄積がある海外・帰国子女教育の実践をみると、『同化』『統合』、そして『共生』の流れを読み取れる」(佐藤郡衛、1999、p.19)と整理する佐藤氏は、「同化」を A (マジョリティの文化)+ B (異質な文化) $\rightarrow A$ 、「統合」を $A+B\rightarrow A+B$ 、「共生」を $A+B\rightarrow C$ と説明し、「共生」を「文化的異質性を相互豊穡化の契機にするものであり、異質との共存をはかるために、マジョリティの文化そのものが変容する $A+B\rightarrow C$ 」とその重要性を指摘しています。多様な乳幼児や保護者にとって居心地のよい園はどの子・保護者にとっても居心地のよい園です。 $A+B\rightarrow C$ の C という新しい文化の生成、文化の豊穡化が重要であるということが異文化間教育で課題となっているということを「知識」としてお持ちいただきたいのです。

次に「感性」についてですが、多文化共生保育では、ある事象に出会った際、その事象の理解をひとつに固定せずに、ああかもしれない、こうかもしれない、といかに柔軟に物事を捉えることができるか、そして、様々な事象を肯定的に受け止めることのできる感性が重要です。考えることを果てしなく楽しめる発想絵本『りんごかもしれない』(ヨシタケシンスケ、2013、ブロンズ新社)の「○○かもしれないの世界」や、『ええやんそのまま』(トッド・パール、2008、エルくらぶ)のどんな人も肯定し、多様性を認め合うことの大切さに触れると、多文化共生保育で育みたい感性を実感していただけたらと思います。

さてここで「知識」と「感性」を具体化する「能力」について考えてみましょう。それは、私が所属する園ではこのようなきまりがあるのはこういう理由からだ、自分がこうしたり、こう考えたりするのはこのような理由からだ、日本で靴を脱いで家の中に入るのはこの様な

理由から、このような歴史があるからだ等、異なる生活様式をもつ人々に自分がなぜそうしているのか客観的に説明することができる能力です。すなわち、自文化を主観からのみで捉えるのではなく、相対化し、言語化してそれを他者に伝える能力が大切となってきます。と同時に、あなたがそうするのは〇〇だからですね、と共感的に受容する、そして、あなたのやり方と私のやり方は同じではない、ではどうしましょうか、と相互に敬意をもちながら調整していく能力が必要となります。

多文化共生をテーマにした絵本の制作の検討を進める中で、絵本は物語の構成や結末が固定されやすく、作り手の価値観が一方向的になりがちという懸念がありました。また、多様な視点を交わす「対話の余白」や、当事者の声を柔軟に取り入れることが難しいという課題も浮かび上がりました。

そこで、「読む・聞く」よりも「対話する・考え合う」プロセスを重視することに重きを置きました。加えて、**当事者のニーズに応じて現場で柔軟にアレンジ・完成できる仕組み**が、より実践的であると判断しました。この考えをもとに、対話型支援ツール「わい Y ボード」の構想は見てきたのですが、その多文化共生保育支援ツールの愛称をどうするか悩みました。ワイワイガヤガヤ意見交換をしながら研修が進む中、「ワイワイボード」と一旦は決まりそうになったのですが、多様性を意識するなら「ワイワイ」と片仮名表記を重ねるより、平仮名表記の「わい」とアルファベットの「Y」でいこう、という案が出て「わい Y ボード」という愛称が産声を上げました。「Y」は山梨県の「Y」、そして研修の拠点となった山梨県立大学 (YPU) の「Y」でもあります。

さあ、それでは多文化共生保育の「知識」、「感性」、「能力」を意識しながら、「わい Y ボード研修」の世界の扉を開けてみましょう。

2. わいYボードって何？

「わいYボード研修」の世界へようこそ。多文化共生保育を考える第一歩はまず文化の多様性に「気づく」ことです。さあ、気づいたらあなたはもう多文化共生保育推進者の仲間入り。「気づき」を豊かな「知識」「感性」「能力」に発展させていきましょう。

多文化共生保育に関わる「知識」「感性」「能力」の育成に近づく方法はいろいろあります。幼児には紙芝居や絵本も効果的でしょう。しかし、それぞれの園の多文化的状況は様々です。ある園には効果的なストーリーの題材や展開も別の園にはそれほど当てはまらないというケースも考えられます。そこで、あなたの園独自の題材や展開を手がかりにして自由に進められるよう YBPT が推奨するのが「わいYボード」です。

詳しくは「3. 『わいYボード研修』の進め方(1) 全体的な進め方」をご覧くださいなのですが、わいYボードはパネルシアターで用いられるパネル布とPペーパーを用いて、4コマ漫画のイメージ（1コマ目はテーマに関する園での実例場面、2コマ目は乳幼児の家庭の事情を聞いてみる場面、3コマ目は乳幼児の意見や保護者の考え方並びにその理由を出し合う場面、4コマ目はではどうするのか良いかみんなで意見を出し合う場面）で進めていきます。

わいYボードは、多文化保育の現場で活用可能であり、外国につながる乳幼児・保護者・保育者が対話や参加を通して活用でき、

困りごとやニーズに応じて、各園で柔軟にアレンジして作り上げていくという特徴をもっています。制作においてプロセスを重視し、制作過程で多文化保育の課題発見や相互理解と尊重の態度を育成します。また、期待される社会への貢献としては、多様なニーズに応じた支援ツールの開発により、すべての乳幼児にとって安心・安全な保育環境の促進が期待されます。さらに、当事者参加型・対話的アプローチによる多文化保育の「わいYボード研修」は保育者の学びを中心に据えた研修モデルとして学術的・実践的に大きな一歩を踏み出すものです。



3. 「わいYボード研修」の進め方 (1) 全体的な進め方

「わいYボード研修」は1回の研修時間に長短があっても構いません。準備するものと研修の手順は次の通りです。

【準備するもの】

- 1) 県から配布されたパネルシアターボード1枚
- 2) 県から配布されたPペーパー 8枚 ※必要に応じてPペーパーは適宜補充してください
- 3) Pペーパーにイラストや文字をかく筆記具 ※ポスカ、太めのマーカー等
- 4) (画像生成AIを活用する場合) パソコン又はスマホ
- 5) (画像生成AIを活用する場合) プリンタ

【手順1】

ガイドブックのpp.2-5に目を通す

【手順2】

右のQRコードまたは[リンク](#)から実践例を参照する



【手順3】

4～8名程度のグループに分かれて、保育場面でのエピソードを自由に話し合う

(例: 身につける衣類、身につけるもの、食事場面、におい、ことば等々)

【手順4】

グループごとにテーマを決定する

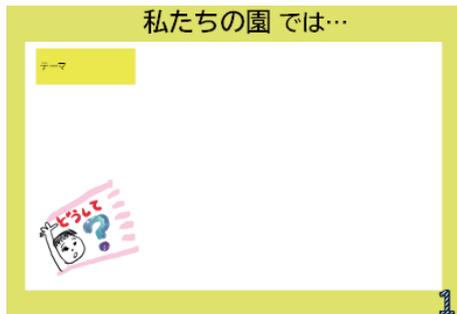
【手順5】

テーマに関する情報や基礎的知識の収集

(文献、ネット検索、観察、インタビュー等)

【手順6】

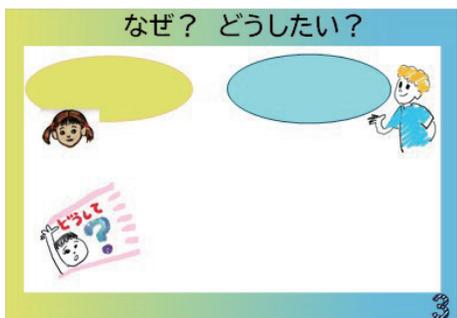
手順5で情報が集まった後、各グループで4場面（場面1～4）をどう構成するか意見交換（付録のワークシートに記入）



<場面1>



<場面2>



<場面3>



<場面4>

場面 1・2：文化の違いを理解し合う、尊重し合うための方法、園でできる対応などを話し合う

場面 3・4：考えられる方法や対応、気づき（知らず知らずの内にいる自分の中の「日本の常識」的な固定観念等も含む）を共有する。

【手順 7】

手順 6 での話し合いの道筋がつき始めたら、パネルシアターボードを使用し、四等分して 4 つの場面を設定する。

右の QR コードまたは[リンク](#)から、これを P ペーパーでプリントアウト、あるいは同様のものを手描きすると 4 場面の枠を簡単に作ることができる。

各場面での気づきや様子を P ペーパーに文字や手描き又は画像生成 AI でイラストをかき、パネルシアターでいう「絵人形」を作成する。

なお、下の QR コードまたはリンクから「絵人形」例が参照できる。



【手順 8】

各グループが「絵人形」を貼りながら発表する。

【手順9】（手順8の発表後余力があれば）

各グループの発表内容について、発表を見た人の意見や感想をどんどん「絵人形」にして追加で貼る。

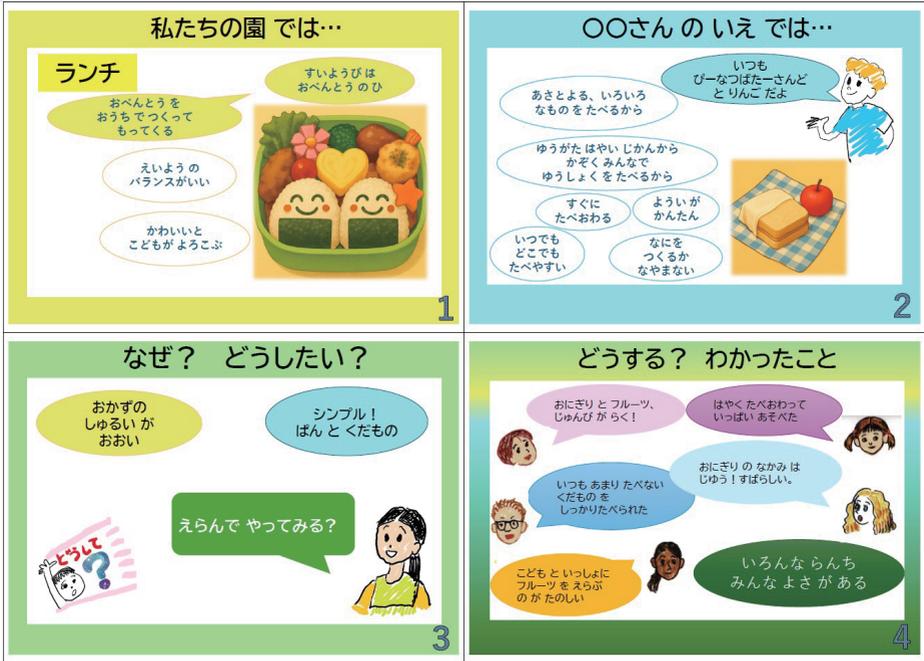


図1 お弁当がテーマの「絵人形」例（イラスト版）

4. 「わいYボード研修」の進め方 (2) 画像生成 AI の活用

さて、3. 「わいYボード研修」の進め方 (1) 全体的な進め方の【手順7】での「絵人形」の作成ですが、制作時間がない、イラストを描くのが苦手だという問題の解決策として、YBPT では画像生成 AI の活用をご提案します。「このような場面を絵にしたい」と思った場面を言葉で説明する（プロンプト）とコンピュータが学習済みのデータを基に画像を生成してくれるというものです。

画像生成 AI には次のような種類があります（図2 参照）。

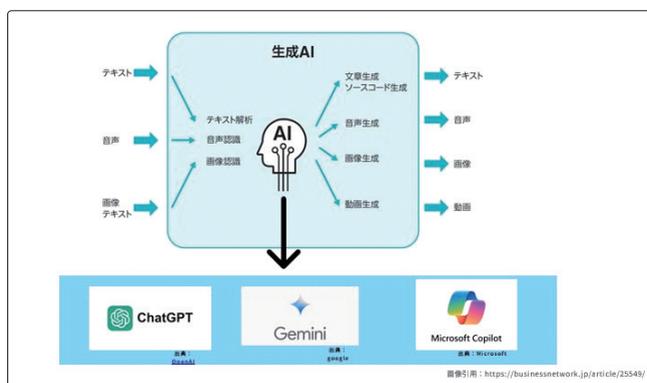


図2 生成 AI の種類

まず、ChatGPT、Gemini、Microsoft Copilot のいずれかをご自身のパソコンかスマホにダウンロードしてください。次にプロンプトの入力となりますが、どんな画像を作ってもらいかきちんと定義して伝える必要があります。詳細なほど精度が上がります。出来上がった画像をチェックして、不自然なことや期待したのと異なる場合はさらに、新たな指示を出して、ご自身が求める画像へと導いてください。

補足としての言葉での説明や、より細かなニュアンスが必要な場合には手描きも「絵人形」も追加されるとよいでしょう。

5. むすびに：「わいYボード研修」で大切なこと

わいYボード研修は、人権尊重を基盤とし、多様な乳幼児や保護者にとって居心地のよい園はどの子・保護者にとっても居心地のよい園、という考え方をベースとするもので、あなたの園に外国とつながりのある乳幼児が在籍しているかないかは問題ではありません。一人一人の乳幼児や家庭にとってそれぞれが背景としている文化は多様です。A+B→C の C という新しい文化の生成、文化の豊穰化が重要で、ただ1つの正解があって、それに向かって答えをみつけていくものではありません。あなたの園の現状に合った「どうする？」を試行錯誤していただきたいと考えています。あなたのご家族が異なる文化で生活するとしたら、どう対応してもらおうとうれしいか、と考えて展開してみるのも効果的でしょう。

「わいYボード研修」で気をつけていただきたいのは、**自分の意見を自由に出すことができる雰囲気**が準備されているということです。「ここは日本なのだから」「郷に入れば郷に従え」と安易に A+B→A (同化) を求めるようなマジョリティからの見えないうプレッシャーがあったり、研修の場において力関係が働き参加者が対等の関係でなかったり、「評価する」「評価される」という関係であると、YBPT の求める研修とは遠ざかってしまいます。

しかし、失敗は恐れなくてください。「相手の立場を尊重する」という意識さえ大切にされていれば、初回の研修で多少うまくいかないことがあっても、回数を重ねる中で多文化共生に近づいていくと考えています。最初に述べたように、「わいYボード」とは、「パネルシアターで使用するPペーパーを使った、対話・プロセス重視のワークショップ支援ツール」なのですから。

この「わいYボード」が大いに活用され、お互いの研修成果の情報が共有されることを期待し、そして、研修後は、未来からの留学生であるどの乳幼児もどの保護者もどの保育者も多文化共生社会の構成員であることが自覚できる、そんな強い願いをもって、皆さんのお手元にこの「わいYボード」をお届けいたします。

<引用文献>

- ・佐藤郡衛（1999）『新訂 国際化と教育：日本の異文化間教育を考える』（放送大学教材 52511-1-9911）、放送大学教育振興会

※ 「わいYボード」は広く皆さんにお使いいただきたいと願っています。本ガイドブックの本文の一部または全部を他のウェブサイトや印刷物に転載する場合は**必ず出典を明らかにしてください。**

また、少人数（2人以上）で行う等、ニーズに合わせた気軽なご活用も工夫してみてください。

<付記> AIと著作権に関するチェックリスト&ガイダンス
 ご参考のため、著作権について文化庁のサイトを図3・4として紹介いたします。

https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkashingikai/chosakuken/seisaku/r06_02/pdf/94089701_05.pdf (2026年2月3日参照)



図3 文化庁 Web 情報 (1枚目のスライド)

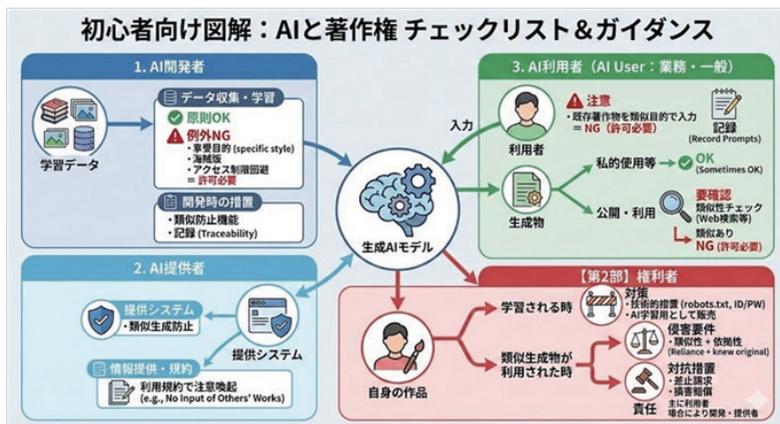


図4 文化庁 Web 情報概要

※文化庁 Web 情報に基づき AI を使用して YBPT が作成

<付録1> ワークシート

右のQRコードまたは[リンク](#)から取得してください



<付録2> 参考情報リスト

カテゴリー	No.	著者等	出版年	タイトル	出版社
絵 本	1	レイ・レオーニ (作) 藤田志雄 (訳)	1967	あおくんときいろちゃん	至光社
	2	ピーター・スピアー (絵と文) 松川真弓 (訳)	1982	せかいのひとびと	評論社
	3	マリー・ホール・エッツ (著)、 坪井 郁美 (訳)	1982	赤ちゃんのはなし (福音館の科学シリーズ)	福音館書店
	4	きたむらさとし	1987	リリーのさんぼ	平凡社
	5	森枝幸士 (写真・文)	2005	手で食べる? (たくさんのふしぎ傑作集)	福音館書店
	6	銀城康子	2006~2020	絵本世界の食事 ○○のごはん (全25巻)	農山漁村文化協会
	7	エメリー バーナード (著)、 ドゥルガ バーナード (イラスト)	2006	世界のだっことおんぶの絵本	メディカ出版
	8	トッド・バール (作) つだ ゆうこ (訳)	2008	ええんそのまま	エルくらぶ
	9	てづかあけみ (え)	2012	世界とてあうえほん	バイ インターナショナル
	10	ヨシタケシンスケ	2013	りんごかもしれない	ブロンズ新社
	11	ヨシタケシンスケ	2014	ぼくのニセモノをつくるには	ブロンズ新社
	12	ヨシタケシンスケ	2018	みえるとかみえないとか	アリス館
	13	メアリ ホフマン (著)、 ロス アスウイス (イラスト)、 杉本 珠美 (訳)	2018	いろいろ いろんな かぞくの ほん	少年写真新聞社
	14	レイチェル・グリーナー (著)、 クレア・オーウェン (イラスト)、 長香織 (訳)	2021	ようこそ! あかちゃん せかいじゅうの家族のはじまりのおはなし	大月書店
	15	アレクサンドラ・ミジュリスカ & ダニエル・ミジュリスキ (著) 岡根谷実里 (監修)	2023	世界の国からいただきます!	徳間書店
	16	アリス・B・マッギンティ (著)、 スズキトモコ (イラスト)、 星野由美 (訳)	2023	おまつりとごちそうで世界いっしょ	汐文社

カテゴリー	No.	著者等	出版年	タイトル	出版社
えじてん	1	てつかあけみ(え)	2012	世界えじてん	バイ インターナショナル
単 行 本	1	関西生命線(編)	1996	外国人のためのお弁当	関西生命線
	2	佐藤淑子	2001	イギリスのいい子日本のいい子：自己主張とがまんの教育学	中央公論新社 (中公新書)
	3	池田克裕・山田千明 (編著)	2006	アジアの就学前教育：幼児教育の制度・カリキュラム・実践	明石書店
	4	山岡ティ	2007	多文化子育て：海外の園生活・幼児教育と日本の現状	Gakken
	5	山田千明(編著)	2010 (初版第3刷)	多文化に生きる子どもたち	明石書店
	6	服部直美	2014	世界のお弁当 心をつなぐ味レシピ55	河出書房新社
	7	福岡 貞子(編)	2014	多文化絵本を楽しむ	ミネルヴァ書房
雑誌	1	絵本でSDGs推進協会(編)、 中川 素子(編)	2022	絵本で学ぶSDGs (301:301) (別冊太陽)	平凡社
Web	1	多文化子育てネットワーク	2018	第1回 多文化子育て調査報告書、第2回 多文化子育て調査報告書 https://www.tabunkokosodate.net/	
	2	文部科学省	2020	外国人幼児等の受入れにおける配慮について https://www.mext.go.jp/content/20200306-mext_youji-000005738_01.pdf	
	3	多文化共生センター ひょうご	2020	たぶんか こどものけんこうえほん(対応言語：英語、中国語、ベトナム語、 モンゴル語、タガログ語) https://www.tabunka-hvogo.org/	
	4	かながわ国際交流財団	2024	保育園・幼稚園での外国につながる園児・保護者受け入れガイドブック https://www.kifjp.org/child/mp-content/uploads/2024/01/enji0330.pdf	
	5	山梨県	2025年更新	保育所等における国際保育の実態調査 報告(令和5年度)、保育所等における 国際保育の実態調査 報告(令和7年度) https://www.pref.yamanashi.jp/danjo-kyosei/tabunkakyosei/survey.html	